

単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術

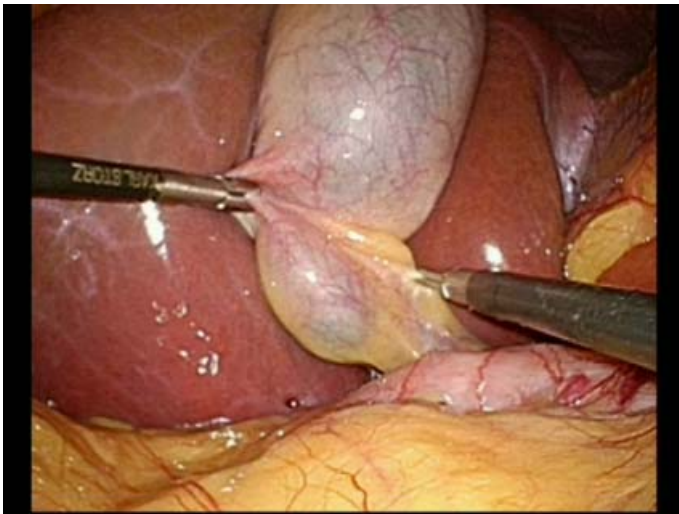
単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術は、おへその部分に約2cmほどの切開を加えて、開腹したのち、装具をおへそに装着します。直径5mmのカメラと手術器具(鉗子)を挿入し、モニター画面をみながら手術をおこないます。従来の手術では4箇所のみでしたが、おへそ1箇所のためきずが目立たないのが特徴です。



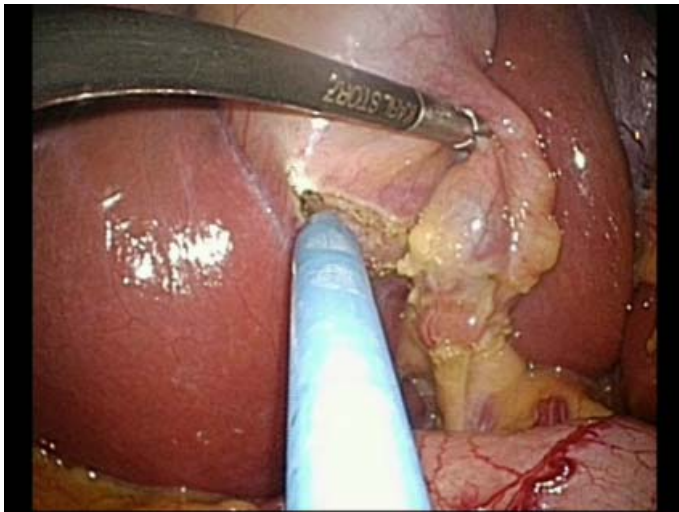
外科医2名のうち、術者は2本の鉗子を操作し、助手がカメラを操作します。



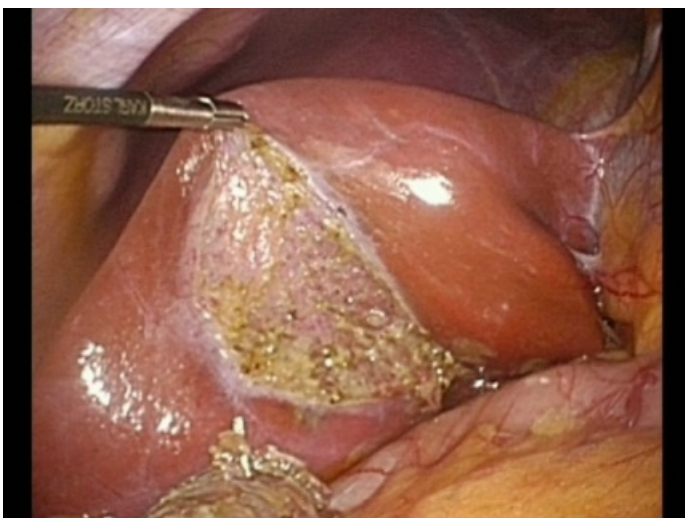
両手がぶつかりやすいため、繊細な操作が要求されます。



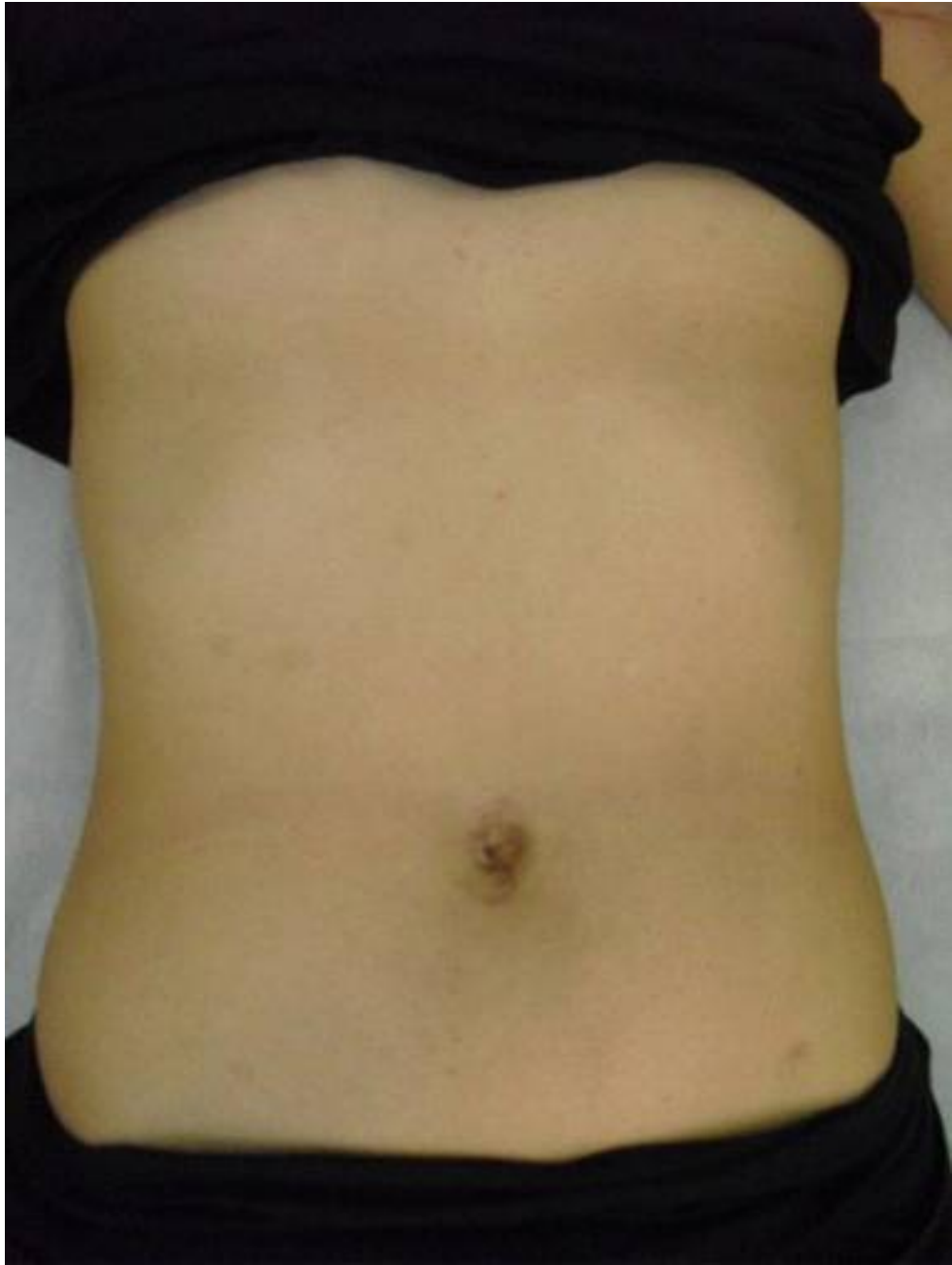
手術開始時の様子です。胆嚢を左の鉗子で持ち上げつつ、右の鉗子で切開を始めています。



先端がL字の電気メスを用いて胆嚢を肝臓から剥離しています。



胆嚢切除が完了しました。



術後数か月経過すると、きずはほとんどわかりません。